

# 「鎮守府」と「三川内焼」 二つの日本遺産

## 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 日本近代化の躍動を体感できるまち

### ストーリーの概要

明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を押し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今なお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくもたくましく、今も訪れる人々を引きつけてやまない。

申請都市 横須賀市、呉市、佐世保市、舞鶴市



佐世保重工業㈱250トンクレーン

## 日本磁器のふるさと 肥前 百花繚乱のやきもの散歩

### ストーリーの概要

陶石、燃料(山)、水(川)など窯業を営む条件がそろった自然豊かな九州北西部の地「肥前」で、陶器生産の技を生かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では互いに切磋琢磨しながら、個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し、我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに、海外からも称賛された。

今でもその技術を受け継ぎ、特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じることでできる磁器のふるさとである。

申請都市 佐賀県唐津市・伊万里市・武雄市・嬉野市・有田町、長崎県佐世保市・平戸市・波佐見町

三川内焼の製作技術例(左から)献上唐子絵・染付技術／菊花飾細工／透かし彫り

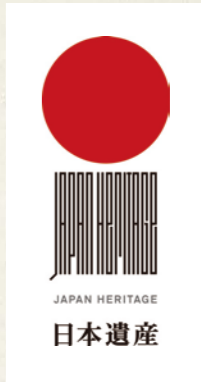


撮影 大川裕弘



特集 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴

# 日本近代化の躍動を 体感できるまち



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

本市特有の歴史・文化を国内外へ広くアピールし、観光によるまちづくりをさらに推進するため、関係市町とともに文化庁の「日本遺産」に申請していた「鎮守府」と「三川内焼」に関連するストーリーが、4月19日の審査委員会の審議を経て両方とも認定されました。これを記念し、今回の特集では、本市に誕生した2つの日本遺産の概要のほか、旧軍港4市の連名で申請した鎮守府関連のストーリーを各都市の写真などを交えて紹介します。

## 「面」で発信

### 日本遺産

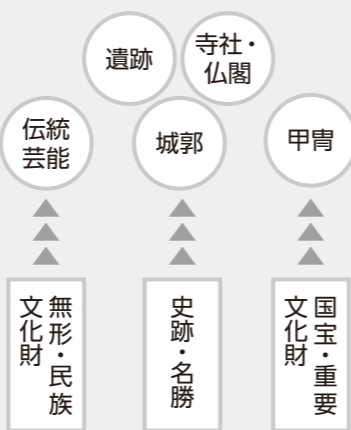
「日本遺産」とは文化庁の事業で、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定し、文化財を総合的に活用する県や市の取り組みを支援する制度です。

平成26年度に創設され、東京オリンピック・パラリンピックで訪日外国人旅行者が増えていくことを踏まえ、2020年までに100件程度の認定が見込まれています。昨年度の認定数は18件で、本年度は4月19日に「日本遺産審査委員会」が開催され、67件の申請中、19件が認定されました。認定されると、情報発信や人材育成、環境整備などの事業に対し、補助金交付などの支援が受けられます。

従来の文化財行政は、それぞれの遺産を「点」として捉え、主に保存することが重視されていましたが、日本遺産は地域に点在する遺産を「面」として一体的に捉え、活用することが重視されており、この点が従来の制度と大きく異なります。

### 従来の文化財行政

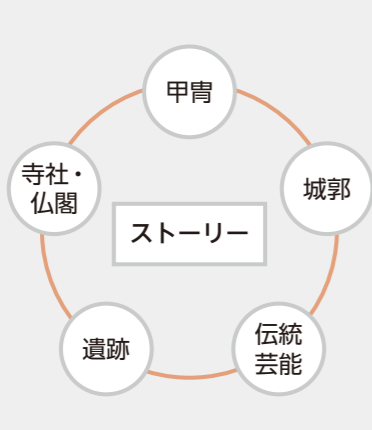
個々の遺産を「点」として指定・保存



↓「保存」重視  
地域の魅力が十分に伝わらない

### 日本遺産

点にする遺産を「面」として活用・発信



↓「活用」重視  
パッケージ化した文化財を一体的にPR



舞鶴市・舞鶴旧鎮守府倉庫施設



佐世保重工業(株)佐世保造船所施設群



呉市・旧呉鎮守府司令長官官舎



横須賀市・猿島砲台跡

日本遺産認定

鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 日本近代化の躍動を体感できるまち  
どこか懐かしくもたくましく  
今も訪れる人々を引きつけてやまない

四市の地勢と軍港の設置

「富国強兵」これは明治新政府が近代国家を建設するために掲げたスローガンの一つで、その強兵の一翼を担ったのが海軍です。明治政府は西列強と対等に渡り合うために、艦艇の配備を進めるとともに、明治17(1884)年、横須賀に鎮守府を置いた後、同22年に呉と佐世保、同34年に舞鶴で鎮守府を開府し、島国日本の周辺海域を分割して管轄する海の防衛体制を確立しました。

この鎮守府とは、軍港に置かれた海軍の本拠地であり、各海軍区を防備し、海軍工廠(艦艇の建造・修理、兵器の製造)や海軍病院、軍港水道など、多くの施設の運営・監督を行いました。また、艦艇部隊の統率には鎮守府司令長官が当たりました。

四つの軍港は、急峻な山に囲まれ、外敵の侵入を拒む湾口、艦艇の航行・停泊が自在にできる湾内、水深の深い穏やかな入江など、厳しい地勢条件を満たして選定されました。軍港の建設から100

年以上が経過し、艦艇こそ現代のものに変わりましたが、港のドックや埠頭、林立するクレーン、その周辺に建ち並ぶれんが倉庫、港に集まる鉄道・水道・通信施設、港から広がるまち並み、港を守る丘の上の要塞跡など、軍港を中心とする特有の景観は、今ではすっかりそれぞれのまちの顔になっています。

日本の近代技術を結集し  
その技術を育んだ軍港

海軍には常に最先端の工業技術や設備が投入されましたが、それを吸収し広く伝え、次の世代へと受け継ぐ力も必要でした。こうした技術力を推進する姿勢は、横須賀海軍工廠の前身となる横須賀製鉄所にそのルーツが見られます。フランスの技術指導により西欧から最新の造船機器を導入し、鉄製部品から建築用れんがに至るまで必要なものは全て同製鉄所で生産する体制を短期間に整えました。それとともに、技術教育学校(饗舎)を開校し、日本人の技術力の向上を図りました。

この技術力の向上を現在に伝えるものに横須賀製鉄所・同造船所のドックがあります。1号ドック(日本最古の石造ドック)はフランス人による建設ですが、3号(現2号)ドックは、饗舎で学んだ技術者が日本人として初めて建設しました。横須賀で培われた技術は呉へ、呉から佐世保・舞鶴へ、さらには民間企業へと移転を繰り返す中で飛躍的な発展を遂げ、呉における職工教習所、技手養成所などの人材育成の充実にもつながっていきます。海軍から生まれた近代造船技術は、横須賀での軍艦「清輝」(897ト)建造に始まり、わずか60年余りの間に呉における世界最大の戦艦「大和」(6万5000ト)の建造に至り、その集大成を迎えます。

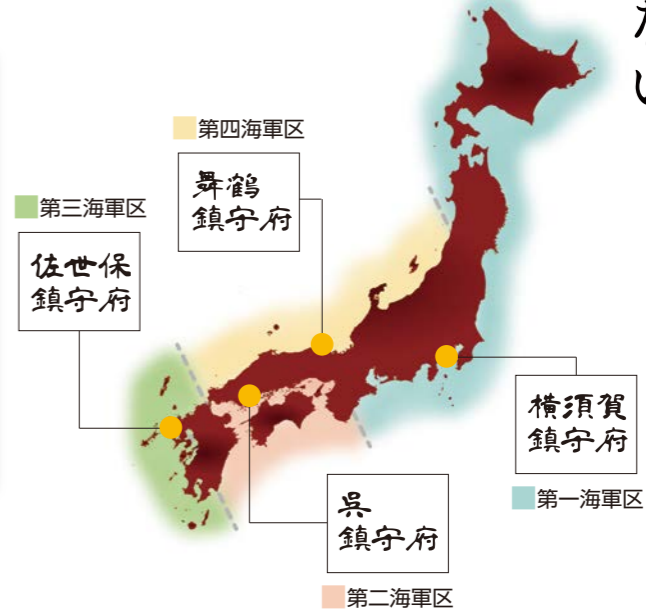


呉市・大和ミュージアム

軍港都市の形成とその特徴

四市は元々半農半漁の静かな村でした。ここに国の関与の下、最新の技術と巨額の予算が短期間に集中的に投入され、急速かつ計画的に軍港都市づくりが進められました。この点に軍港都市形成上の大きな特徴と独自性があります。

中でも、四市の水道が軍港水道として発達し、その後、市民に供給された歴史が特筆されます。横須賀では走水と半原の2系統の水道があり、後者は神奈川県北部の相模川支流から高低差70mを利用して53mを自然流下させる無類の通水システムで、10年の歳月をかけ大正10年に完成しました。また、呉では鎮守府開庁の翌年には全国で3番目の早さで近代的水道施設を開設し、大正7年に



佐世保鎮守府庁舎



針尾無線塔配筋工事の様子



針尾無線塔の工事関係者



現在の針尾無線塔



舞鶴市・自衛隊棧橋



佐世保市民文化ホール(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)



呉市・海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎(旧呉鎮守府庁舎)



横須賀市・逸見波止場衛門



## 九十九島、ハウステンボスに続く「日本遺産」 本市の歴史・文化を国内外へ発信します

本市の歴史と文化を代表する、「鎮守府」(日本の近代化と海軍の遺産)と「三川内焼」(日本磁器のふるさと 肥前)が、このたび「日本遺産」として認定されました。

「日本遺産」は、我が国の魅力を国内外に発信し、伝える取り組みであり、今回の認定を誇りに思うとともに、大変うれしく思います。

本市は、1889(明治22)年の旧海軍佐世保鎮守府開庁とともに、当時の国内外の最先端の技術を投入した大掛かりな土木・建築工事等が日本の近代化に向けて推し進められました。造船所などの産業基盤をはじめ、鉄道や道路、市街地、水道施設などの都市基盤も明治から大正にかけて整備され、その多くは100年経った今もまことに溶け込んで稼働しています。

また、「三川内焼」は400年以上の歴史を誇り、かつて平戸藩の御用窯として繁栄した本市唯一の国指定伝統的工芸品であり、幕末から20世紀半ばまで海外にも輸出され、その白磁の美しさ、繊細・緻密な透かし彫りや染付がヨーロッパにおいて高い評価を受けています。三川内焼を代表する絵柄「唐子絵」の食器は、現代でも多くの皆

さまに愛されています。

今回、本市において同時に2つの日本遺産が誕生することとなり、改めて本市が有する多彩な魅力を認識する機会となりました。

今回の認定により、西海国立公園「九十九島」やハウステンボスに代表される観光都市佐世保に新たな魅力「日本遺産」が加わることとなります。2020年に東京で開催予定のオリンピック・パラリンピックに向け、訪日外国人旅行者が増加し続けることが見込まれる中、今回認定された「日本遺産」を活用し、国内外から、より多くの観光客の皆さまをお迎えできるよう、市民の皆さまと共に、おもてなしの環境を整え、PR及び観光客誘致に積極的に取り組んでまいります。

市民の皆さまにおかれましては、本市の歴史・文化をこれまで以上に感じていただきますとともに、これからの取り組みにご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐世保市長 朝長 則男



は長さ97m、高さ25mの当時東洋一の規模を誇った本庄水源地堰堤水道施設が完成しました。重厚で壮大な規模の水道施設の建設は、艦艇への給水や工業用水として、どれほど水が重要であったかを証明しており、軍港への水の安定供給が実現したことで市民生活にも潤いを与えることになりました。

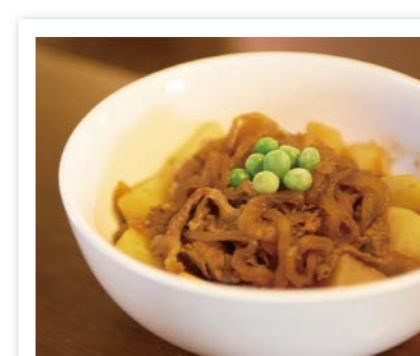
また、陸上交通の整備にも特徴があります。四市は海路の利便性とは裏腹に陸路には難があったため、鎮守府開庁に伴い、幾多のトンネルや鉄橋を建設して鉄道を敷設しました。これにより人と物資の輸送を促してまちの発展を加速させました。全国からの急激な人口流入も四市共通の現象で、鎮守府に通じる幹線道路を中心に、機能的で発展性のある基盤目状の市街地を形成しました。その結果、佐世保では鎮守府開庁前3800人程の人口が、約20年で13倍の5万人を超えるほどの人口増加に対応できました。

このように水道・鉄道・市街地などの都市基盤の整備は、市民の生活を支え、軍港都市をつくっていきました。明治12年から同38年まで刊行された横須賀明細式覧図などの絵図は、軍港の発展と共にまちが広がっていく様子を生き生きと描いています。また、舞鶴では、基盤目状の市街地の街路に、当時活躍した八島、敷島、三笠など大小33の艦艇名を

名付けました。明治35年の命名以来、軍港都市としての自信と誇りが伺えます。軍港がまちにもたらしたものは、先端技術や都市基盤の整備ばかりでなく海軍由来の食文化もあります。明治41年に舞鶴海兵団が発行した「海軍割烹術参考書」には100種類以上の洋食の詳細なレシピが掲載されています。カレーや肉じゃがなどは、海軍が「かっけ」予防として採用した洋食を日本人の口になじむように改良したものでした。

近代日本の海防の要として共に歩んだ横須賀・呉・佐世保・舞鶴の四市。西欧の先端技術を導入し、その技術を伝え、さらに新たな技術を創り出し、技術力を高め合うことで日本の近代化を押し進めました。軍港建設により一躍、近代都市へと変貌を遂げた証となる石・れんが・鉄・コンクリートの数多くの軍港関連遺産の中には、現在でも稼働する施設が多くあり、当時の技術水準の高さを伺い知ることができます。

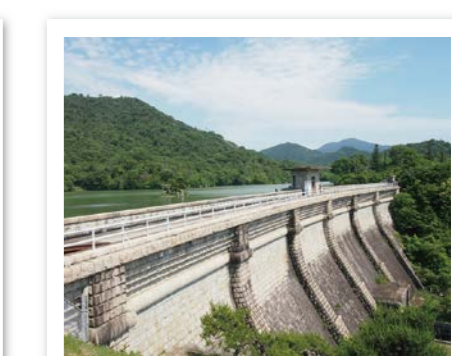
軍港そして鎮守府が置かれたまちの歴史を共有し、その歴史を体感できるのは日本の中でこの4力所だけです。どこか懐かしさも、たくましい往時の姿を残しつつ、日本の近代化に向けて躍動した軍港都市は、訪れる人々を引きつけてやまないでしょう。



舞鶴市・海軍グルメ「海軍肉じゃがが丼」



横須賀市・横須賀明細式覧図



呉市・本庄水源地堰堤水道施設

日本遺産のPR・活用に関する問い合わせ ④観光課 ☎24-1111

日本遺産の歴史・文化財に関する問い合わせ ④社会教育課 ☎24-1111